

欧州景気概況(2022年4月)

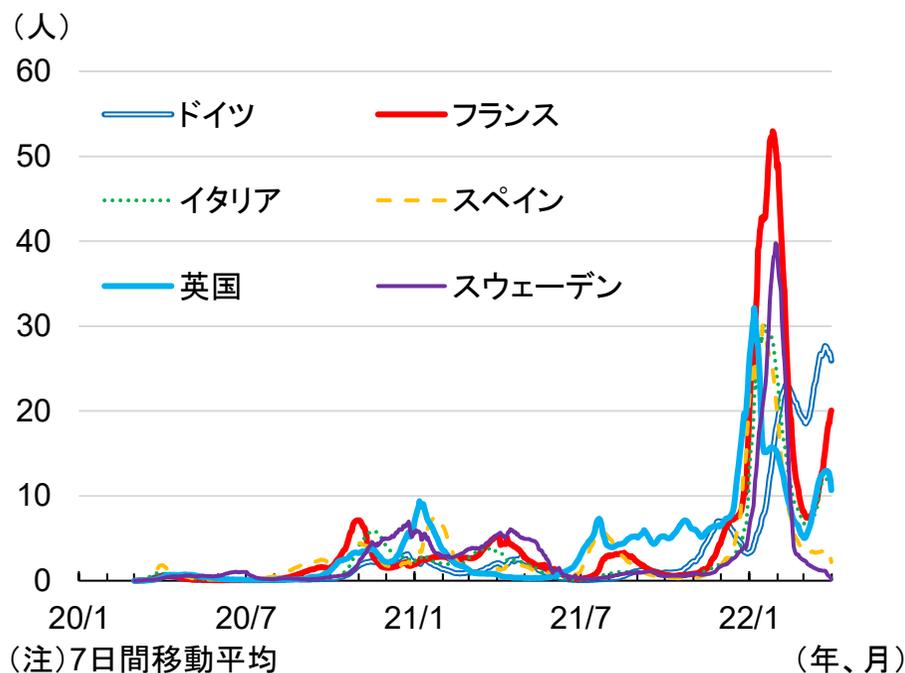
2022年4月4日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

欧州では3月に入り、新型コロナウイルスの感染が再び拡大している。オミクロン株の派生型で感染力が強いとされるBA・2が流行している模様。とはいえ各国政府は規制の緩和を進めており、新型コロナとの共生を図っている。

人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	2/16に第一段階の緩和、3/4以降に第二段階、3/20以降に第三段階の緩和。第三段階で交通機関や公共施設でのマスク着用義務を除き、原則として行動制限を全面廃止。
フランス	3/14に規制をほぼ全て撤廃。飲食店や映画館などの利用にワクチン接種の完了を証明する「ワクチンパス」の運用が終了。公共交通機関などを除き、屋内でのマスク着用義務も撤廃。
イタリア	非事態は3月末まで。段階的にほぼすべての規制を解除へ。4月末に屋内でのマスク着用義務が終了、5月初には、ワクチン接種の完了か感染からの回復、検査での陰性を証明する「グリーンパス」の提示義務が撤廃される模様。
英国	2/24にイングランドで行動規制を全て撤廃。無料の大規模検査も4/1で停止。

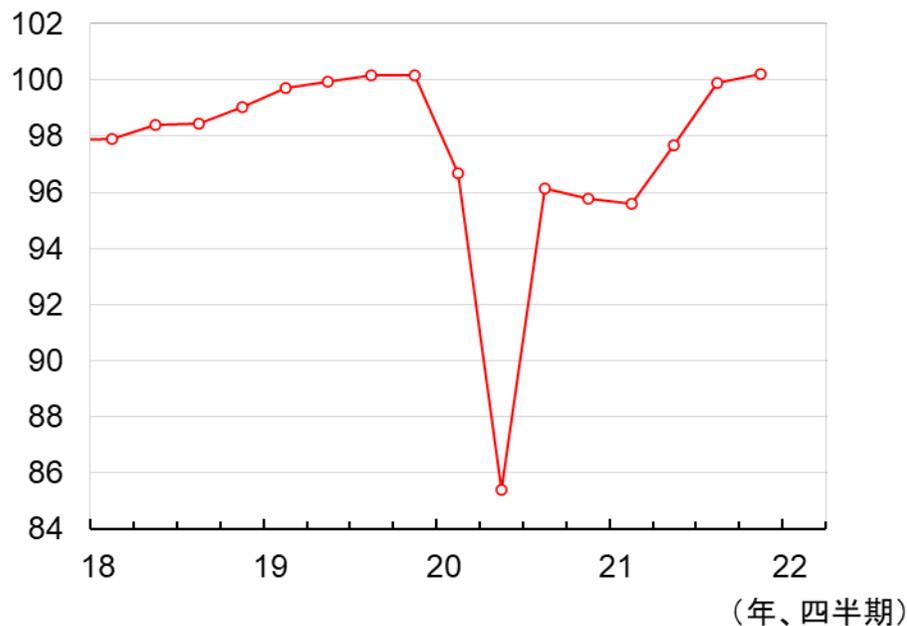
(出所) 各種報道

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年10-12月期の実質GDPは前期比+0.3%と前期(同+2.3%)よりも増勢が失速したが、水準はコロナショック前を上回った。一方で、3月の景況感指数は108.5と2月(113.9)から低下し、均した動きも低迷。ロシアのウクライナ侵攻が嫌気されたものと考えられる。

実質GDP

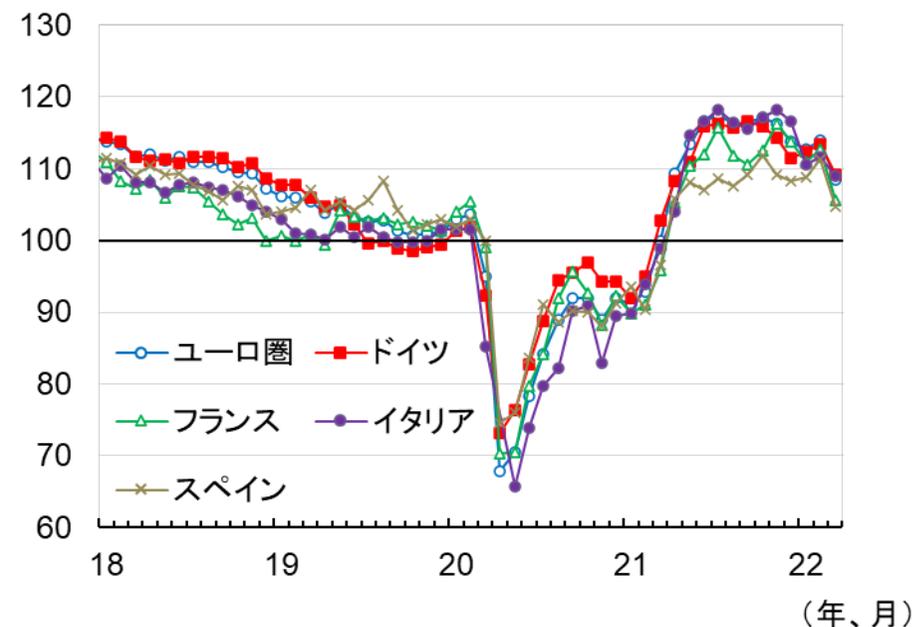
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)

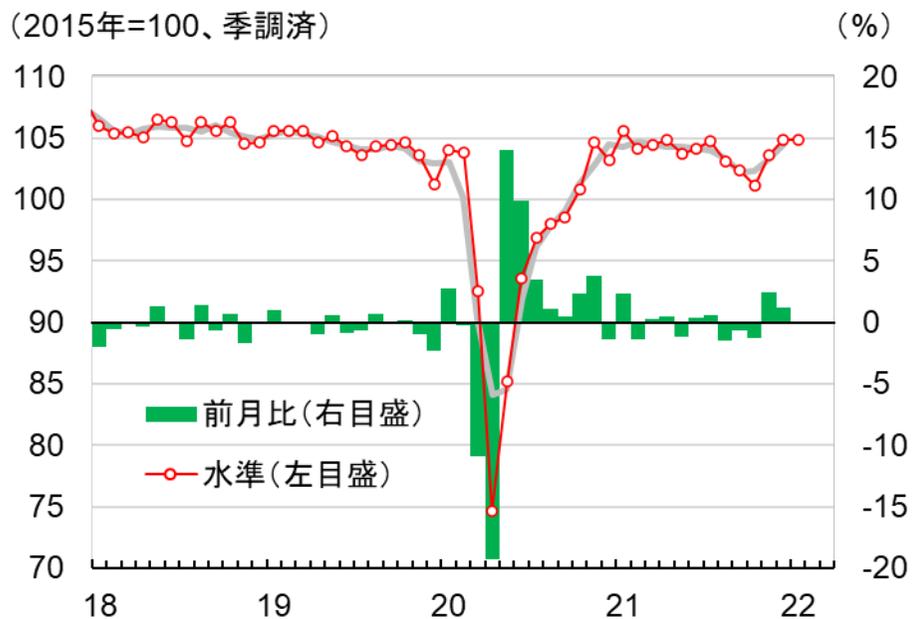


(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は回復

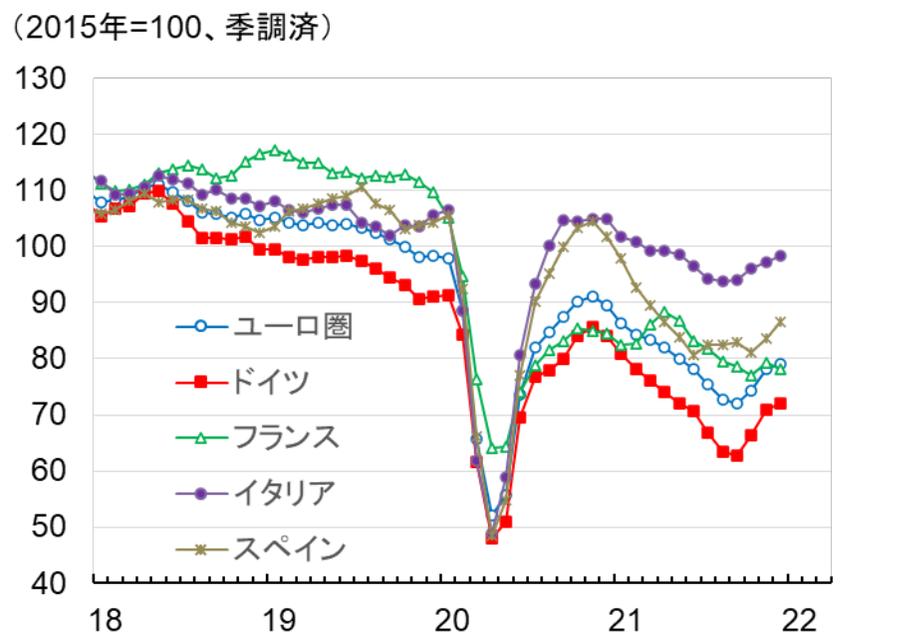
ユーロ圏の1月の鉱工業生産は前月比横ばいに留まったが、均した動きは回復基調を維持。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数も、半導体不足の解消などから各国で回復が続いた。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は横ばい

ユーロ圏の1月の小売数量は前月比+0.2%と再び増加も、均した動きは横ばい圏で推移。一方で、2月の新車販売台数も前月比+5.2%の年率796万台と再び増加したが、均した動きは横ばい。車種別にはEV(電気自動車)などの電動車が堅調である模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

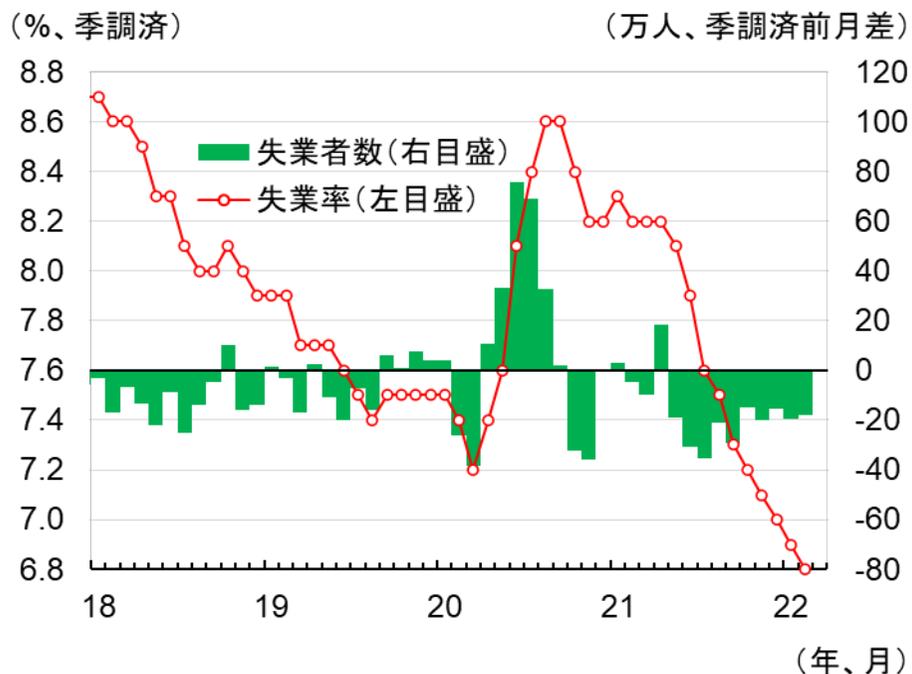


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

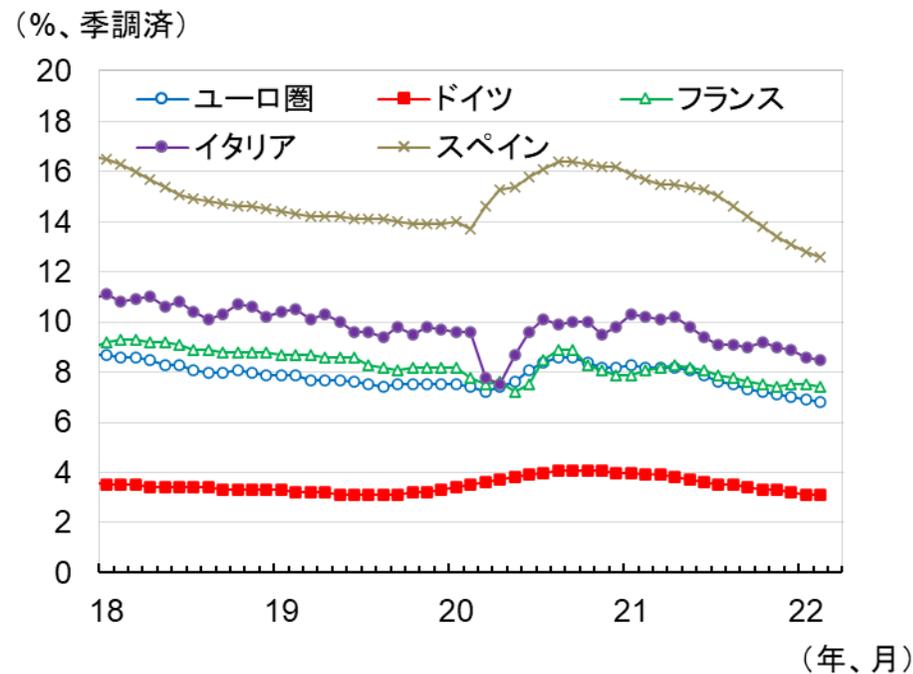
ユーロ圏の2月の雇用統計では、失業率が6.8%と低下が進み、失業者数も前月比18.1万人減と前月(19.4万人減)からマイナス幅は縮小したが、雇用は改善が進んだ。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を維持。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

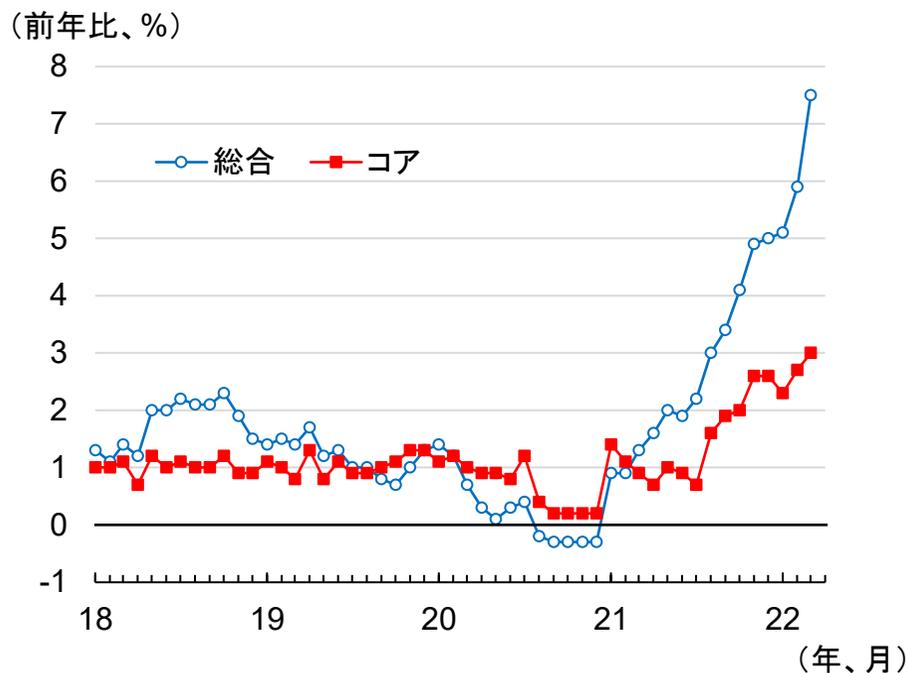


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

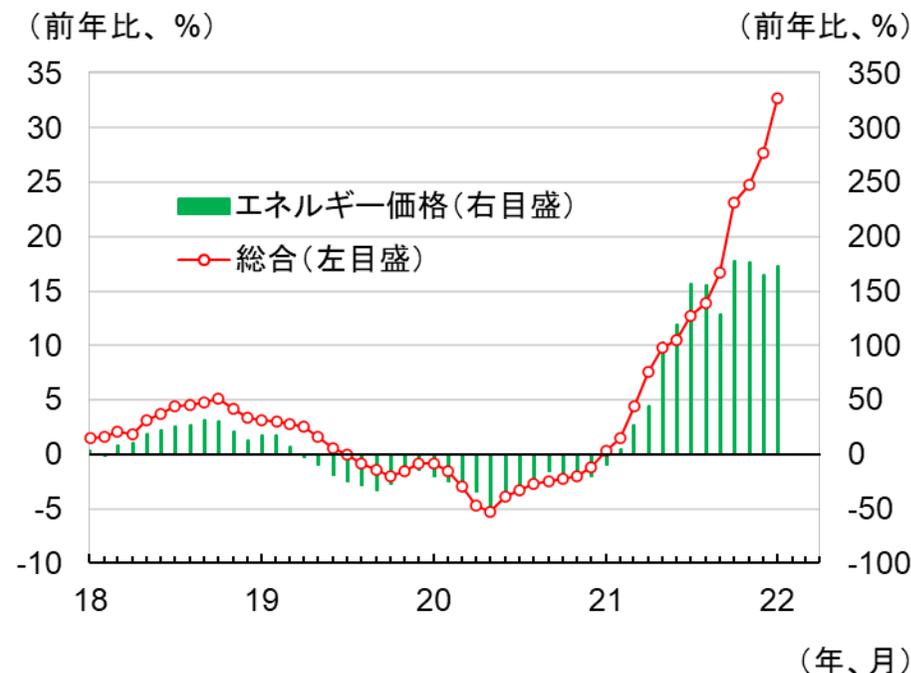
ユーロ圏の3月の消費者物価は前年比+7.5%と、インフレの加速が続いた。先行指標である生産者物価も1月時点で前年比+32.7%と、伸び率の拡大が続いた。うちエネルギー価格は同+143.6%と、高い伸び率を維持。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは資産購入策の縮小ペースを加速へ

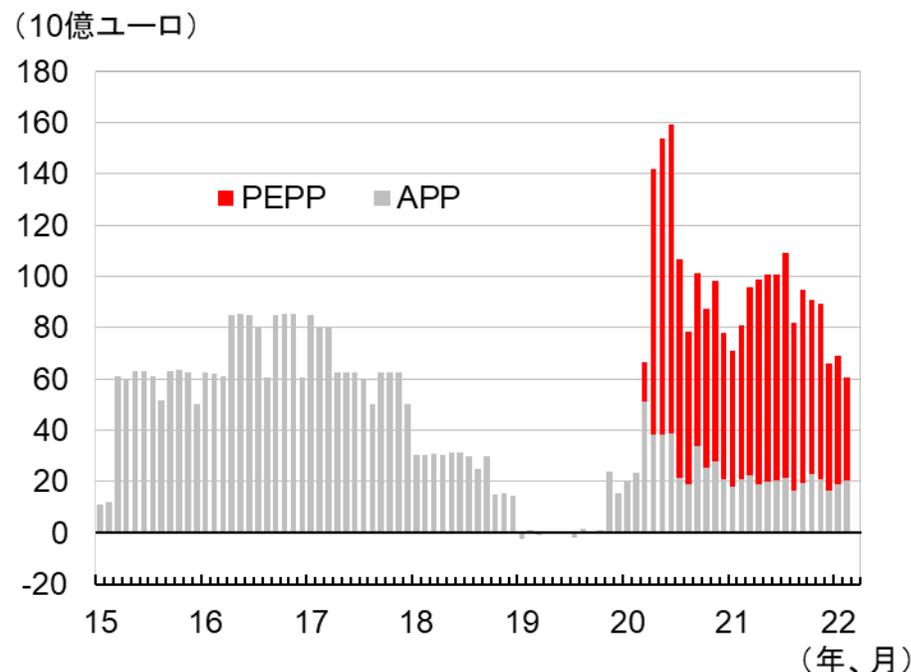
欧州中央銀行(ECB)は3月10日に定例理事会を開催、各種の政策金利を既往の水準に据え置いた。一方で量的緩和政策に相当する資産購入プログラム(APP)については、縮小ペースの加速を決定した。インフレの動向次第で、APPは7~9月期に打ち切られることになる。次回の理事会は4月14日に予定。

ECBの金融緩和パッケージ

内容	2022年3月理事会	2021年12月理事会
政策金利	変更なし	上限金利を年0.25%、主要金利を年0.00%、下限金利を年▲0.50%に据え置く
資産購入プログラム(APP)	4月に400億ユーロ 5月に300億ユーロ 6月以降は200億ユーロ 早ければ7~9月に終了も	4~6月は月400億ユーロ 7~9月は月300億ユーロ 10月以降は最初の利上げ まで月200億ユーロ
パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)	変更なし	2022年3月で終了、再投資は2024年末まで
TLTRO3	変更なし	2022年6月で終了
ユーロシステムレポファシリティ(EUREP)	2023年1月15日まで延長	2022年3月終了(決定そのものは2020年12月理事会)

(出所) 欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

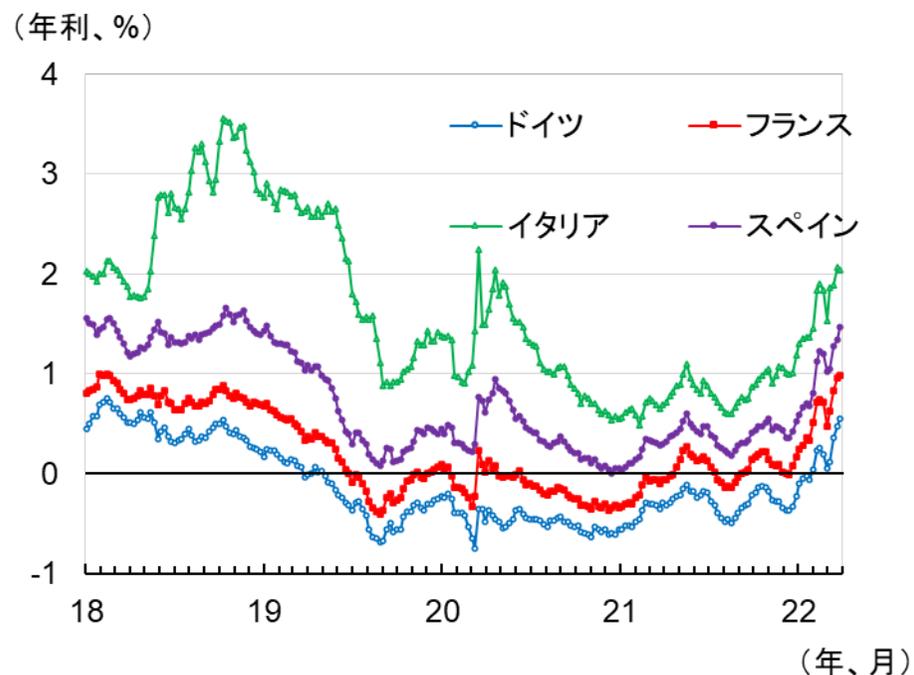


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落後に上昇

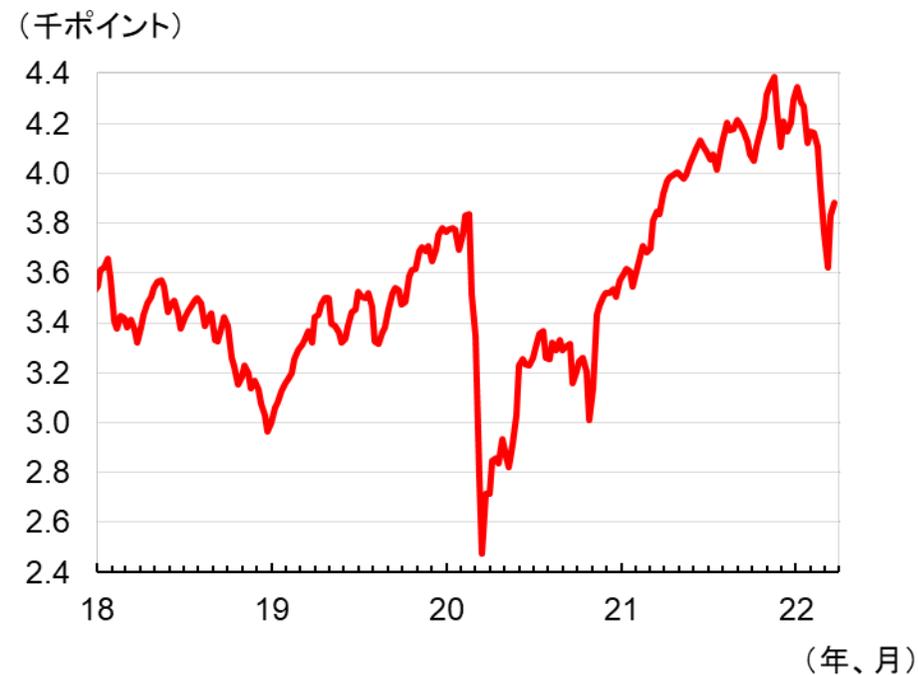
3月のユーロ圏の長期金利は上昇した。米連邦準備制度理事会（FRB）やECBが金融緩和の回収に向かっていることが金利を押し上げた。一方で、株価は下落後に上昇した。月前半の株価はロシアのウクライナ侵攻を受けて下落したが、月後半の株価は中国の景気対策に対する期待などから上昇した。

長期金利



(出所)ECB

株価(Eurostoxx50)

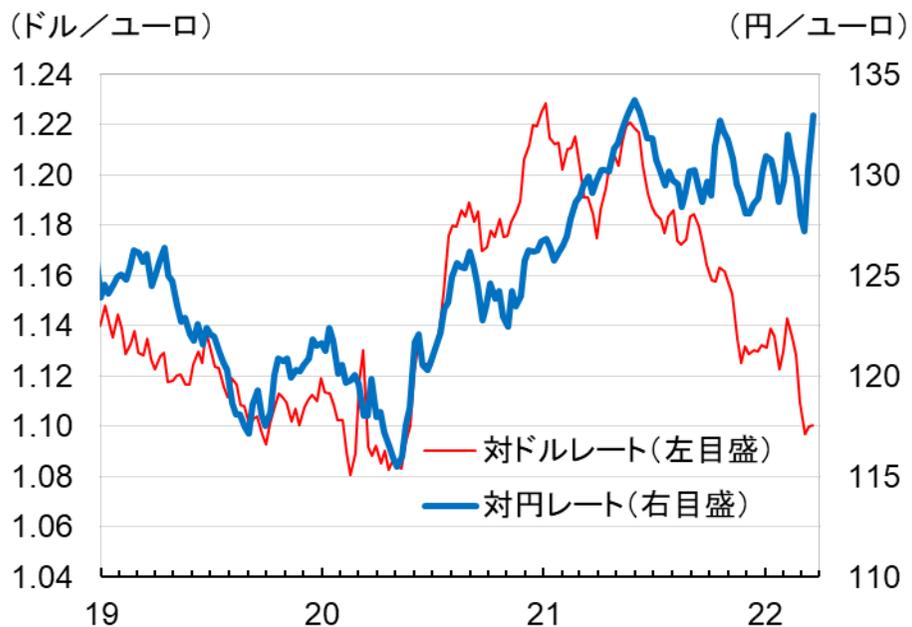


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルで下落、対円で上昇

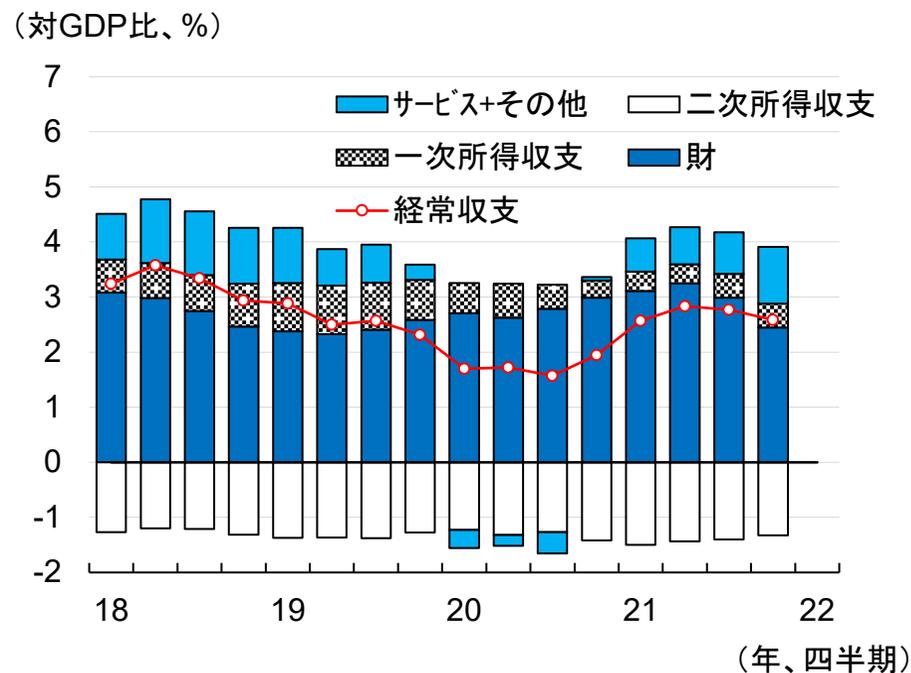
3月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇した。対ドルでは、米FRBが利上げしたことなどからユーロ安が進んだ。一方で対円では、ECBがAPPの縮小ペースを加速した反面で、日銀が大規模金融緩和を維持したことから、ユーロ高が進んだ。

ユーロ相場



(注) 週次レート
(出所) ECB

国際収支



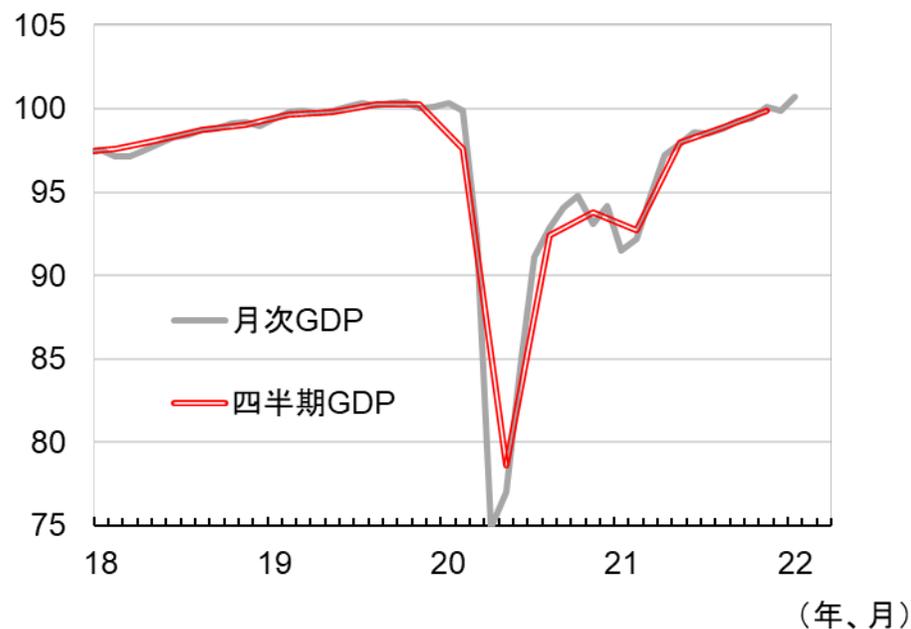
(出所) ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年10-12月期の実質GDPは前期比+1.0%と、7-9月期と同じ伸び率を維持した。産業別には、サービス業が堅調を維持して景気回復をけん引した。また最新2022年1月の月次実質GDPは前月比+0.8%と再び増加に転じ、コロナショック前の水準を上回った。

実質GDP

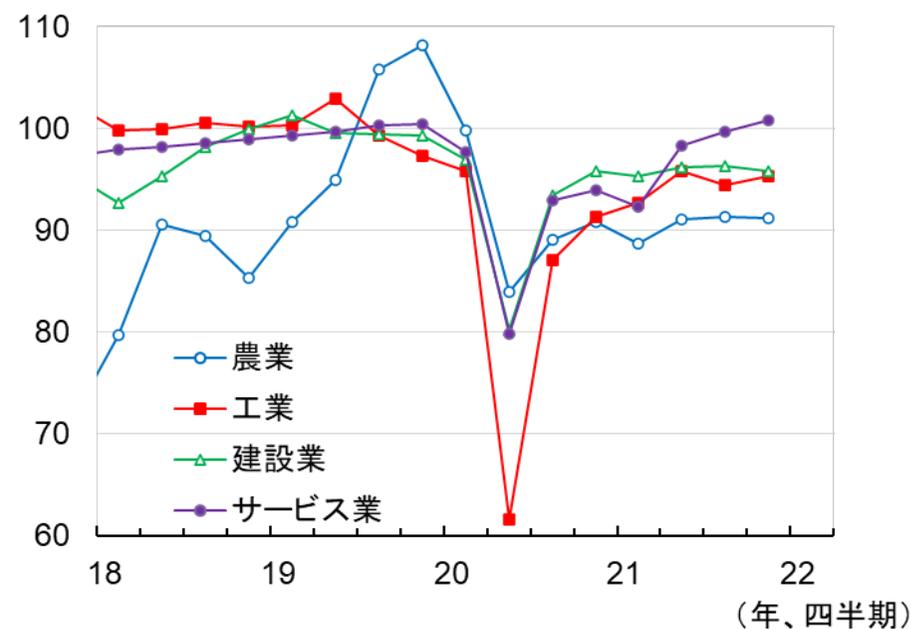
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

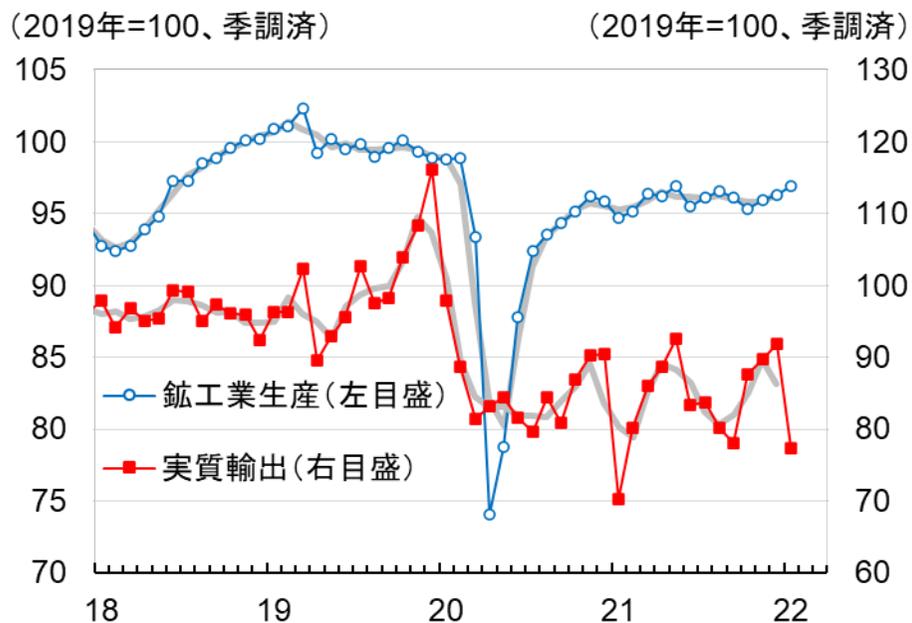


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は増加

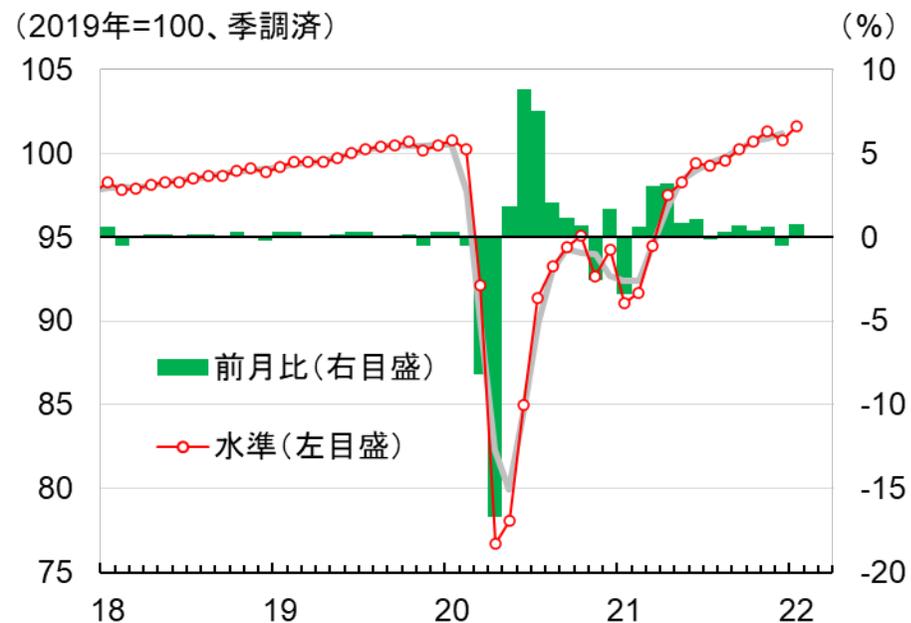
英国の1月の鉱工業生産は前月比+0.6%と3ヶ月連続で増加し、均した動きも上向きが続いた。一方で、同月の実質輸出は同-15.9%と大幅に減少、均した動きも下向きに転じた。一方で、1月のサービス生産は前月比+0.8%と再び増加し、均した動きも上向きを維持。輸送や公共サービスなどが好調だった。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は低迷

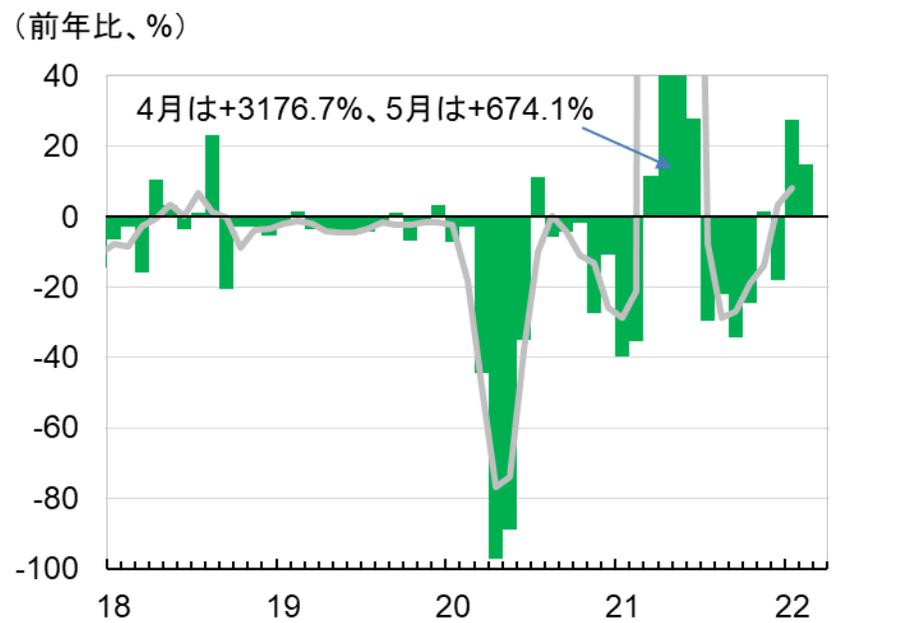
英国の2月の小売数量(除く石油)は前月比-0.3%と再び減少、均した動きも減少基調で推移。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+15.0%(5.9万台)と、前月(同+27.5%)より伸びが鈍化したものの、均した動きは前年比プラスを維持。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

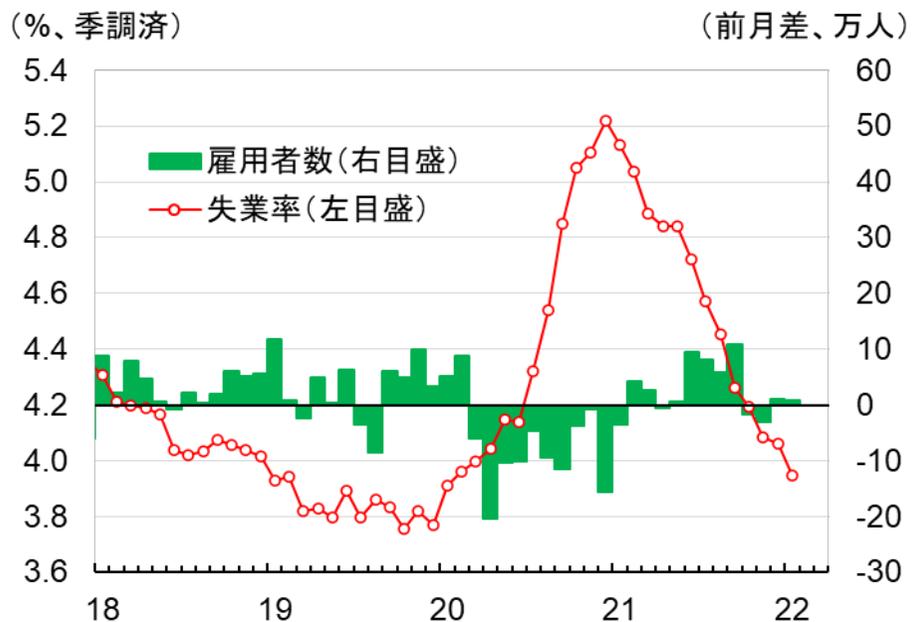


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

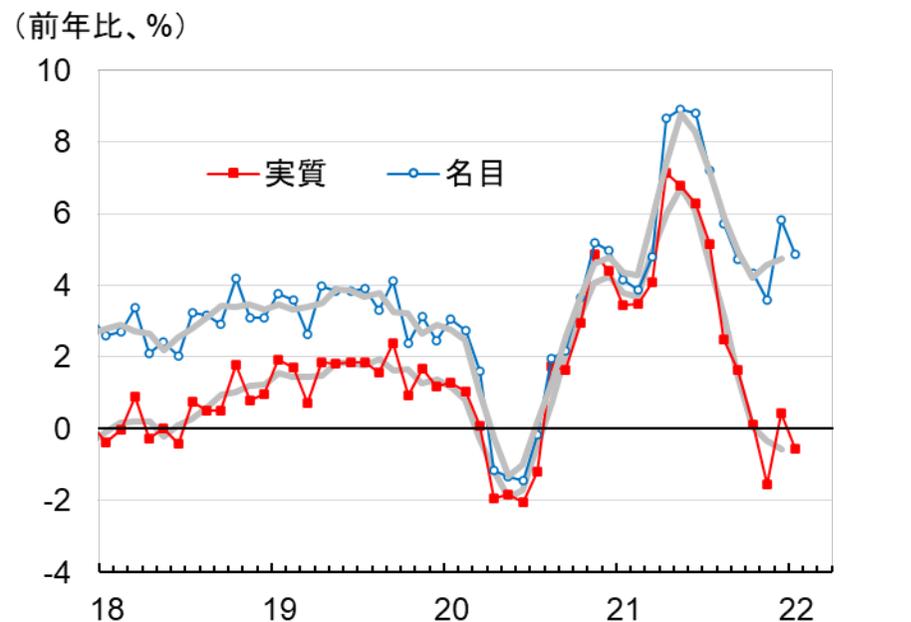
英国の1月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.9%に低下した一方で、雇用者数も前月比0.8万人増と2ヶ月連続で小幅な増加にとどまるなど、雇用情勢は改善が足踏み。均して見た賃金の増勢は名目ベースだと伸びが再び加速したが、消費者物価で実質化した実質ベースだと前年割れが定着。

雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所)ONS

平均賃金(週給)

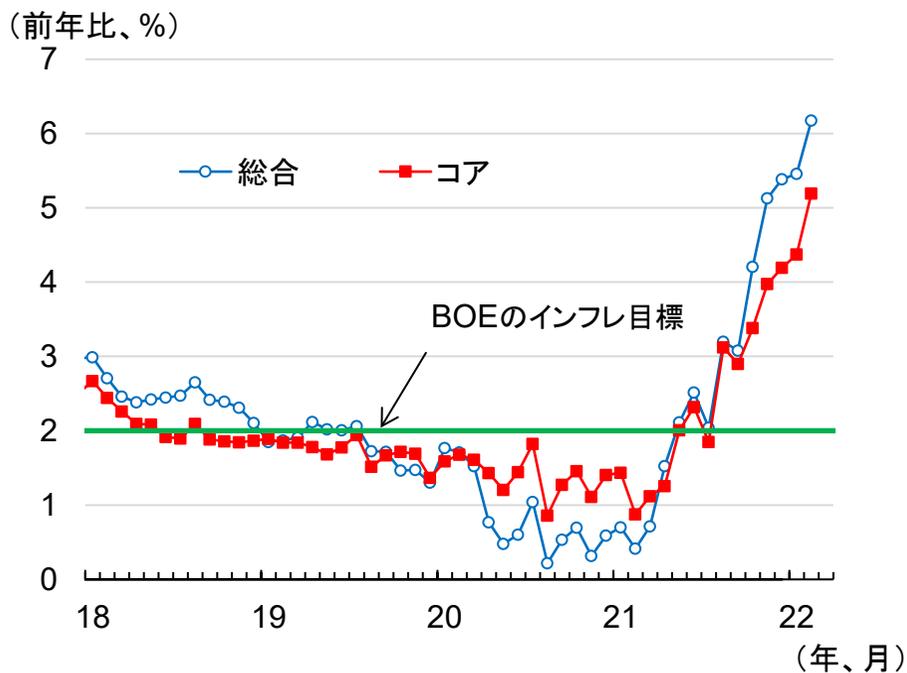


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

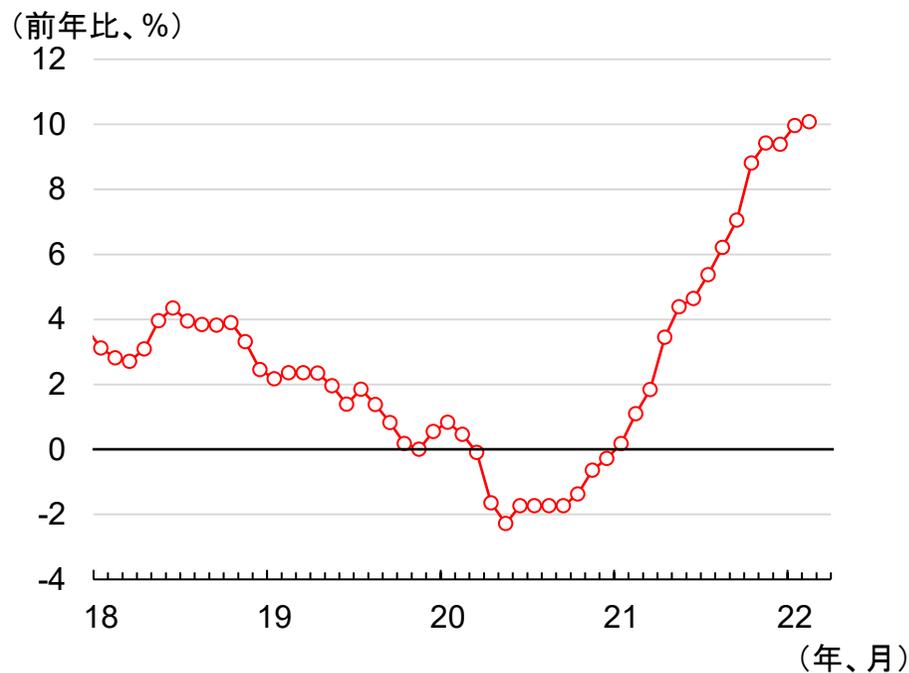
英国の2月の消費者物価は総合指数ベースで前年比+6.2%と、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。同月の生産者物価も同+10.1%と、前月(同+10.0%)と同様の伸びとなり、インフレ圧力の根強さを物語る。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

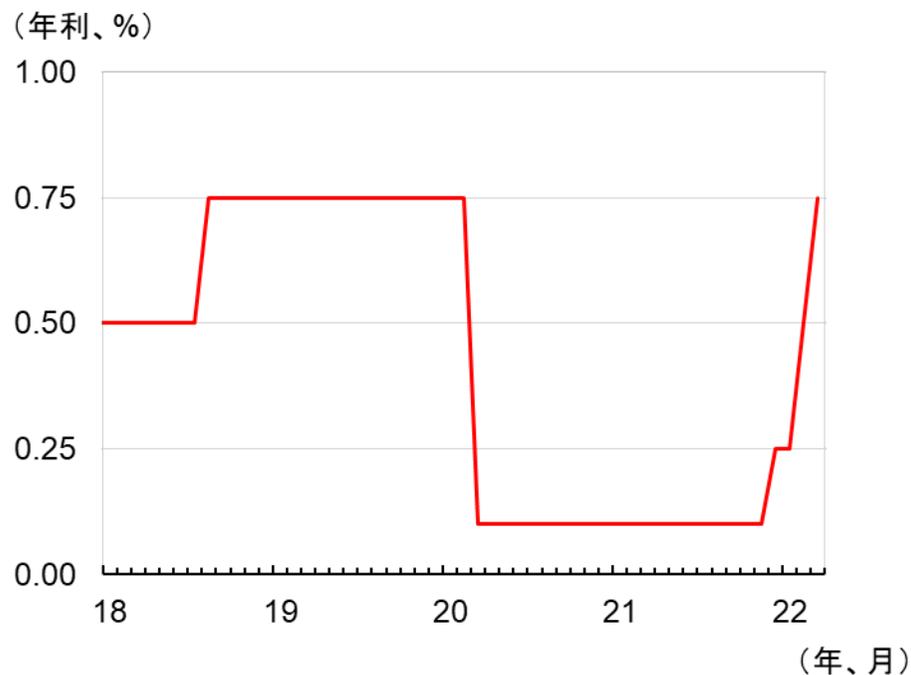


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは追加利上げを実施

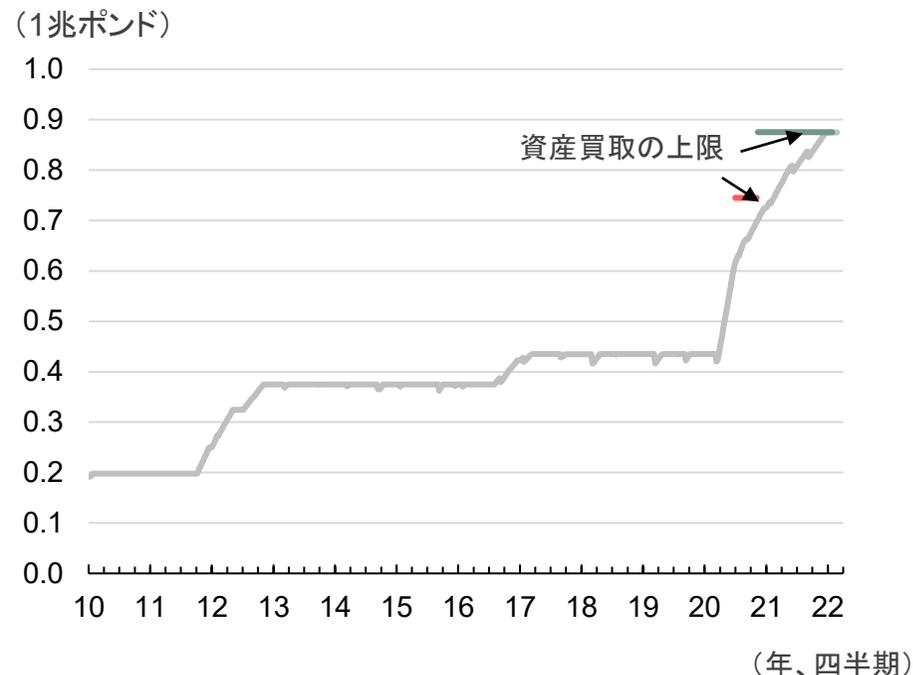
イングランド銀行(BOE)は3月17日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利を0.5%から0.75%に引き上げた。BOEはMPC後の声明で、エネルギー価格の高騰が個人消費を下押ししていることに鑑み、先行きの追加利上げに関する文言を和らげた。次回MPCは5月5日に予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

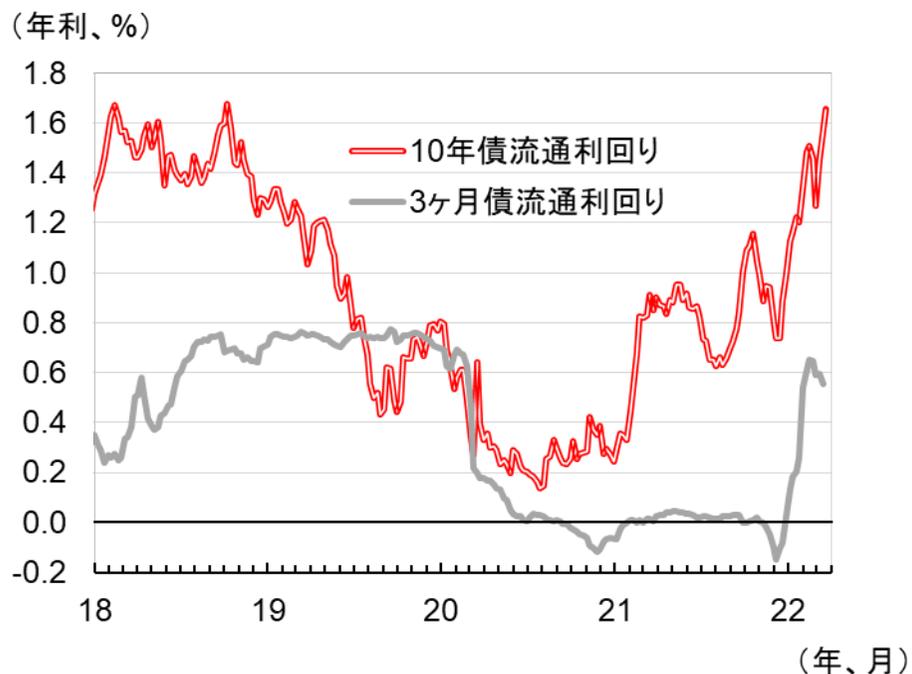


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落後に上昇

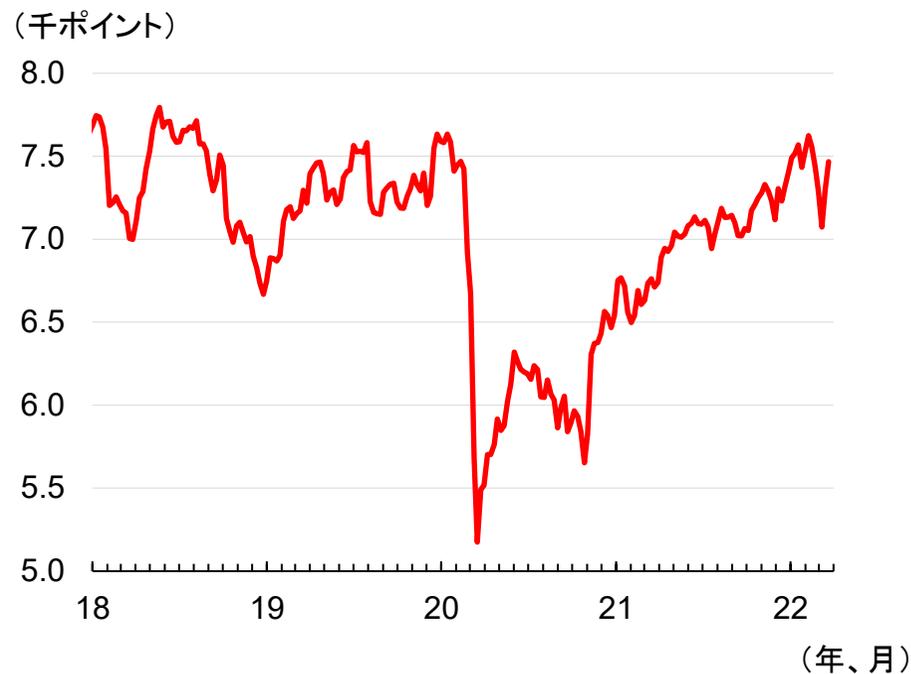
3月の英国の長期金利は上昇した。FRBが利上げに着手したことに加えて、BOEが追加利上げを実施したことが金利の上昇圧力になった。一方で、株価(FT100指数)は下落後に上昇した。月前半の株価はロシアのウクライナ侵攻を受けて下落したが、月後半の株価は中国の景気対策に対する期待などから上昇した。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)

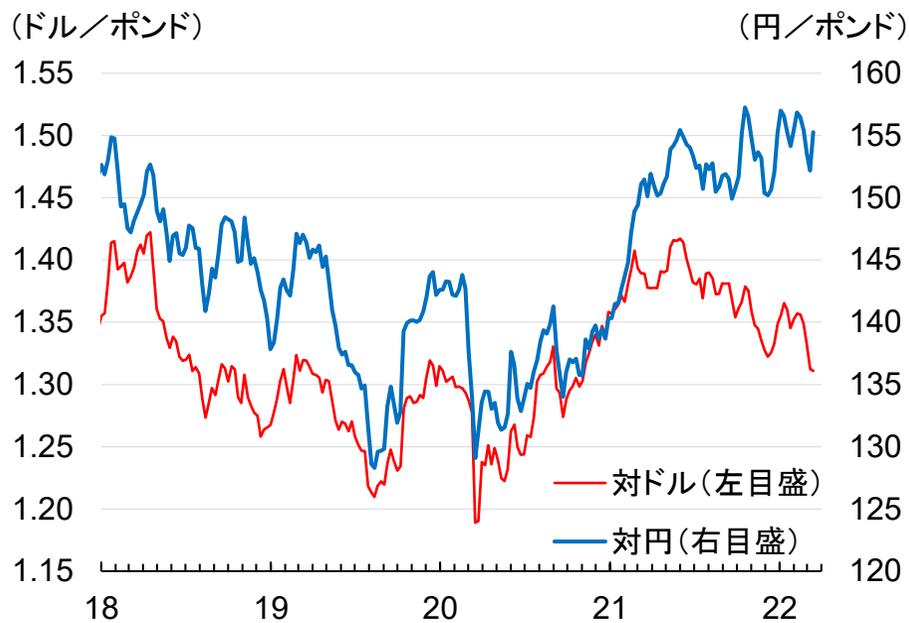


(出所)BOE

英国景気概況⑧ 対ドルで下落、対円で上昇

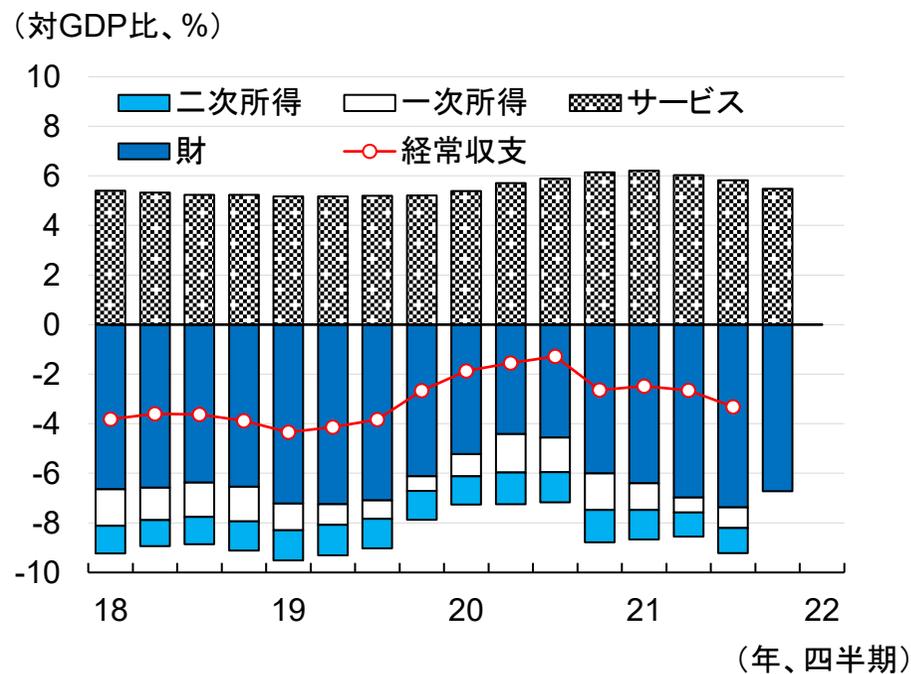
3月のポンド相場は対ドル下落、対円で上昇した。対ドルでは、追加利上げに積極的な米国と慎重な英国のスタンスの違いがポンド安につながった模様。一方で対円では、BOEが追加利上げをした反面で、日銀が大規模金融緩和を維持したことから、ポンド高が進んだ。

ポンド相場



(注)週次レート
(出所)BOE

国際収支



(出所)ONS

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください